

神々の物語を再構築する「NEO神楽(ネオカクラ)」

平成16年度文化関係助成者

NPO法人あとりえはらつば 代表 ふじわらやすえ

山本ト書きより

「篠笛と太鼓の軽やかな音に合わせ、全長20メートル余りの真紅の龍が登場。体をゆつくりと折り曲げながら、口にくわえた厚の角を幸運と繁栄の印として観客の一人に託し、去って行く。」

「NEO神楽(ネオカクラ)」は、地域の伝承・神話・昔話などに新たな側面から光を当て、現代へのメッセージを付与した物語として再構築することをテーマに活動するグループです。古い題材に現代的な演劇・音楽・舞踊などの要素を加えることにより、新たな民衆の芸能文化エンターテイメントともなるよう心がけています。



自然の象徴として物語に登場する龍。持手は地元青年団のみなさん。

1997年にシリーズの初演を行い、その後、様々な形で発表を続けてきました。

今年、伝承・伝説を西大寺地域に求め、獅子舞神楽、行道の形式で構成しました。制作には、30代を中心とした20名ほどがかかり、地域の伝説調査や台本構成、演出等にも積極的にかわるなかで、地域の魅力に気づき、これをどう引き出すかという努力を重ねました。

観客のかたからは、「岡山にこんなに深い物語があるとは知らなかった。地域のことをもっと知りたい。」「岡山の魅力を紹介する活動を今後も続けていきたい」という感想をいただき、今後の活動継続に新たな決意をいたしました。

この活動を支援してくださいました。文化振興財団に深く感謝申し上げます。

随想



正月6日、岡山市内のギャラリーで小林白汀先生の書展が開催されると聞き、家内と一緒に出かけた。数ある作品の中でも、ひときわ目をひいたのが「無事は貴人」と書かれた一幅の掛軸で、しばらくその場を離れることができなかった。

無事について思う

株式会社フェイスコーポレーション 特別顧問 永井三郎

とが、心のわだかまりとなつて、ためかもしれない。

「一方「天災は忘れられたころにやってくる」との先人の警句や、「のど元過ぎれば熱さを忘れる」とのことわざにもあるとおり、人間は平穩に慣れると厳しい体験さえも忘れ勝ちである。確かに人の力には限界がある。しかし、無事なときにこそしっかりと準備をしていけば、どんな災難も相当防げるはずである。これは一人ひとりの自覚と実行が前



(福武文化振興財団 監事)

茶席などでも用いられている「無事は貴人」の真意とは、大分かけ離れた解釈の「無事」について駄弁をろうとしたが、しぜん禅の悟りとは程遠い老書生のつぶやきとお断り申しあげ、お許しを得たい。

であることに異存はない。しかし、私は「無事」の意味を、普通の平穩あるいは安穩と解してもおかしくなろうと思つている。人が長い人生を無事平安のうちに生き続けることは、それほど簡単容易なことではなく、むしろ大変素晴らしいこと、貴重なことと思つておられる。特に、そんな思いを深くさせたのは、昨年の異常気象や天変地異、さらに戦争、テロ、犯罪などで、わが国のみならず世界の多くの人たちが、悲惨な災害の犠牲となられたこと

提だが、戦域や地域、国家レベルでの対応が必要な場合も当然ある。例えば、予想される東南海地震に対しては、かなり徹底した防災対策や避難訓練等が行われている。

つまり、無事であることの有り難さ、尊さを思うにつけ、無事であり続けるためには、相応の努力や施策が必要だと言いたいのである。このことは、個人の生命、財産や幸せを守る上での「無事」とどまらない。広く経済・社会の発展や、教育・文化の振興をはかる上でも、世の中が平和、無事であることが重要だが、その平和、無事も決して、棚からぼた餅「式」では得られない、と思つのである。

谷口澄夫教育奨励賞を受賞して

井原市立井原小学校 教諭 山部 英之

昨年度は、栄えある谷口澄夫教育奨励賞をいただき、誠にありがとうございます。大変光栄に思っております。

私は、テレビ会議システムに興味をもち、井原市内をはじめ、全国各地の学校と連携して交流学習に取り組んでいます。平成16年度には、本校の4年生が、同じ市内の小学校4年生と「守ろう！命とくらしをささえる水(上水道と下水道)」というテーマで

躍動感のある授業

いっしょに学習しました。子どもたちは、わくわくドキドキしながら一生懸命に取り組ましました。今回、本校の子どもたちに「テレビ会議システムのよさ」と「今後やってみよう」について意見を聞いてみました。



山部 英之氏

子どもたちの言うとおり、テレビ会議システムは、音声と映像が同時に送受信されるため、テレビ画面にうつされた相手の顔を見ながらリアルタイムで会話をすることが出来ます。それだけではなく、自分たちが表現した絵や図・グラフ等を表示しながら説明することも可能です。遠く離れた場所の人と、自分の学校にいながら話をすることが出来るので大変便利です。本校の子どもたちは、「自分たちの発表に対して、すぐに反応があること」や「他の学校の友達と



協力して学習すること」に対して大変魅力を感じています。

- 今後やってみよう
- いろいろな人と心をつなぎ、いっしょに学習したい。
- 自分たちが調べたことを発表したい。
- 私たちのことを県内の人にいっぱい知らせたい。
- たくさん友だちをつくりたい。
- 遠く離れた学校の友だちと交流して仲良くなりしたい。

「メディアの向こうには必ず「人」がいる。「人」を意識することにより、交流学習に躍動感が生まれる。」といわれています。このような子どもたちの躍動感を大切にした実践に、これからも前向きに取り組んでいきたいと思つています。

福武教育振興財団・福武文化振興財団 主催

第22回教育・文化講演会

「東アジアの視点からみた 総社の鬼ノ城」

講師 ノートルダム清心女子大学 教授 葛原 克人先生

しされました。

1月27日、岡山国際ホテルにおいて、第22回教育・文化講演会を開催し、県内各地から約1600人の方の参加がありました。

講師には、ノートルダム清心女子大学教授の葛原克人先生をお迎えし、「東アジアの視点からみた総社の鬼ノ城」という演題でご講演いただきました。

先生は、今から約1300年前にさかのぼる古代山城・鬼ノ城築城の謎と、鬼ノ城の現状について、スライド映像を通して具体的にお話



参加者の多くからは、「分かりやすい解説と貴重な映像を交えてのお話で、鬼ノ城の復元の現状なども理解でき、大変興味を持ちました。」という感想をいただきました。

(野間)